

第5回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会 議事概要

1. 日 時：令和4年4月26日(火) 14時30分～15時40分

2. 場 所：甲賀市役所4階 教育委員会室

3. 出席者：〔委員8名〕（敬称略）

狩野秀樹、伊藤孝子、中西三夫、山田昭、前川志津子、青木秀樹、
八木正隆、中野和彦

※欠席：池田静香

〔事務局（市）〕

西村教育長 松本次長 村地次長 松村参事
教育総務課 田原課長 田中室長補佐

〔傍聴者〕

0名

4. 内容

開会

市民憲章唱和

1. 教育長あいさつ

みなさん、こんにちは。今週末から始まる大型連休を前に、新緑鮮やかで薫風心地よい、好季節となりました。

本日は大変お忙しい中、昨年度から数えますと第5回となりますが、今年度初めての「甲賀市小中学校教育のあり方審議会」にご出席いただき、ありがとうございます。日頃はそれぞれのお立場から、本市の教育行政に対しまして、格別のご支援とご指導を賜り、誠にありがとうございます。

また昨年度は、それぞれのご事情がおありの中、委員就任のご快諾を賜り、7月から2月まで、審議会としては4回の会合、さらにその合間に2回の視察・学校訪問を行っていただきました。それらを通じて、本市教育委員会がお願いいたしました「甲賀市小中学校教育のあり方」について丁寧かつ慎重に審議を重ねていただき、年度末には報告書としてまとめ、提出いただいたところです。改めてお礼を申し上げますとともに、今年度も引き続き、よろしく願い申し上げます。

さて、1年目の昨年度においては、「より良い教育環境のあり方」に関する基本的な考え方についてご提言をいただきました。いただきましたご提言を、課題解決に向けての道標にしていきたいと考えており、今後の進め方については、教育委員会及び関係部局において検討を始めているところです。

さらに2年目となる今年度におきましては、本市の将来を見据えた中で、変化する社会情勢に柔軟に対応できる子どもたちを育成するためのより良い教育環境のあり方について、具体的な審議を重ねていただきたいと考えております。

昨年度に文部科学省により開催されました、「全国市町村教育委員会オンライン協議会」では、「過疎地域の小規模校の在り方について」の分科会が設定され、私も参加いたしました。事前資料においては、「学校統合を検討する場合」と「小規模校を存続させながらその教育の充実を図る場合」の2つに分けて方法や課題、留意点など整理されており、審議の参考にしていただけるのではないかと考えております。

特に今年度、教育委員会といたしましては、①特色を生かした地域学の取り組みと進め方②児童生徒数が減少する中、ICTを活用した教育の推進など、時代に即した学校指導体制について③小中一貫教育の導入に向けて④教科担任制の導入に向けての4点を中心に、より良い教育環境のあり方について、審議をお願いしたいと考えています。そのためには、先進的な取り組みをされている地域や学校に足を運び、研修を踏まえた審議を進めていただきたいと考えているところです。

「より良い教育環境」というテーマからは、その先が学校再編のあり方・進め方につながるものが想定されますが、そのことに関する基本的な考え方については、昨年度末の提言書において既に方向性を示していただいているところであり、2年目の今年度は、学校再編という課題だけに限定せず、様々な視点から、本市における小中学校教育のあり方について幅広く審議を進めていただきたいと考えています。詳しくはこの後、担当より説明をさせていただきます。

また、昨年度に引き続き、今年度も会長を狩野秀樹様、副会長を伊藤孝子様には是非お願いさせていただきたいと考えております。

結びに、今後も引き続き、お力添えとご指導を賜りますよう改めてお願い申し上げ、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局

教育長の挨拶にもございましたが、委員の皆様、昨年度に引き続き、会長、副会長を狩野会長と伊藤副会長をお願いしたいと考えていますが、いかがでしょうか

意見なし

ご意見等ございませんので、狩野会長、伊藤副会長、今年度もよろしく願いいたします。

狩野会長にご挨拶をいただきます。会長、よろしく願いいたします。

2. 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。昨年度も会長という重責を担わせていただきながら、十分なことができず、また今年も大変恐縮しているわけがございます。皆様のお知恵を拝借してつつがなく務めさせていただこうと考えているところでございます。どうぞよろしくお

願いいたします。

さて、最近の様子を考えると、犬は人間をどのように見ているのでしょうかということをおられる方がおられますが、子どもたちは社会の動きを私たちが昔思い描いていたようなことを感じているのかということに危惧しています。例えば、このコロナ禍で集団で学ぶということを知らないで大学を卒業するとか、高校を卒業するとかいう子どもたちがいます。それで社会人になるということです。そういう点は、人との交流というものがどのように映っているのか、簡単にいうと歓迎会も送別会もございませんので人と交わるといってもどう映っているのか。かたや戦争での殺りくが報道されていることに対して、子どもたちはどう捉えているのかなと大変な危惧をしている反面、やっとな修学旅行に出かける中学校の観光バスを見たり、校外学習や園外保育に出かける子どもたちの様子を見かけるといつもの4月が戻ってきたのかなという感じをしております。そういう点でやはり時代は変わっても不易な部分では、私たちが大事にしている人との温かさや自然の良さや地域の良さ、甲賀市が進めておられる地域学をもとにした学習については、子どもたちに伝承して行きたいし、子どもたちにもまた繋いでいきたいと思ってもらえるのが良いのではないかと考えています。今年度も皆さんのお知恵をお借りしまして、甲賀市の教育として子どもたちが地域の温かさ、人の温かさ、自然の豊かさを感じてもらうことを忘れてはならないということに冒頭に置きながらより良い審議ができればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

3. 会議の公開について

- ・事務局より説明（事務局）

4. 令和4年度の審議について

会長

先程、教育長のご挨拶にありました今年度、委員の皆様へ審議いただきたい内容は、私のメモによりますと、①特色を生かした地域学の取り組みと進め方②児童生徒数が減少する中、ICTを活用した教育の推進など、時代に即した学校指導体制③小中一貫教育の導入に向けて④教科担任制の導入に向けての4点であったかと思っております。このことについて、委員の皆様ご意見等ございませんか。

事務局より説明があれば、お願いします。

事務局

今年度、審議会委員の皆様へ審議をしていただきたい内容は、①特色を生かした地域学の取り組みと進め方②児童生徒数が減少する中、ICTを活用した教育の推進など、時代に即した学校指導体制③小中一貫教育の導入に向けて④教科担任制の導入に向けての4点です。

①「特色を活かした統合校の地域学の取り組みについて」は、

土山小学校の現状について見ていただき、学校統合により学区が広がり、自分たちのふるさととしてこれまでの土山小学校、山内小学校、鮎河小学校の特色を活かした取り組みや豊かな地域の自然や伝統、歴史を教材とした「地域学」を地域の方のご協力をいただきながら継承し、さらに充実をさせ、子どもたちがより広い地域のことを学べる取り組みとして進めることについて、協議いただきたいと考えています。

②「時代に即した学校指導体制について」は、

今後の少子化に対応した教育のあり方、ICTを活用した教育のあり方、新型コロナウイルス感染症の拡大により分かったこと、気づいたことについて、協議をいただきたいと考えています。

③「小中一貫教育について」は、

甲賀市で実施している「小中連携教育」から「小中一貫教育」への移行について、また、「一体型」「隣接型」の「小中一貫教育」の導入について審議をいただきたいと考えています。

④「教科担任制について」は、

国が進めている教科担任制において、市内小学校の専科教員の配置に常勤教員、非常勤教員、教員の配置なしの現状があります。中学校に入る前に教科担任制を経験できる子どもたちとできない子どもたちがいる教育環境について審議をいただきたいと考えています。

説明は、以上です。

会長

このことについて、ご意見はございませんか。

委員

令和3年度の当初に小中一貫教育について、お伺いした時に小中連携を考えていて小中一貫教育、小中一貫校については、考えていないという発言をいただいたと思うのですが、それが変わったという訳ではないのですね。もう一度確認したいと思います。

事務局

小中一貫については、市の方では小中連携を進めており、ここ数年は小中一貫教育について視察等をさせていただきまして研究を進めているところです。将来的には、小中一貫教育導入の是非も含めて、小中一貫を同じ場所で進めるのか、違う場所で進めるのかについては、今後の研究を進めながら決めていかなければならないと考えております。

委員

私の関わった市では、小中一貫の施設一体型の事務局を関わらせていただいた経過がありますので質問させていただきました。

会長

方法、内容含めて、小中一貫教育に対する検討とハードの部分も併せるのかも含めて今年度審議いただきたいということだと思います。他にございますか。〇〇委員よろしいですか。

委員

私の子どもの頃は、貴生川小学校は3クラスあって、中学校も貴生川中学校3クラスで構成メンバーも小学校と同じでした。小中一貫みたいな過程で育っていました。別に違和感もなく、ファミリー的で今思いますと良かったかなあと思っています。刺激は少なかったかも知れませんが、授業についていけない学習意欲を喪失してしまった子どもやいじめの問題は少なかったかなあと思っています。子どもたち同士は、小さい時から知っていますし、競争心の面ではないかも知れませんが、ファミリー的で温かい感じの学校であったかなあと思っています。

会長

〇〇委員①～④で何かございますか。ご意見等ありましたらお願いします。

委員

教科担任制ということで、昨年度は貴生川小学校で素晴らしい実践を見せていただいたのですが、今年度聞くところによりますと芸術、教科だけではなくて、昨年度に比べて新たな取り組みがあるように思うのですが、そのことについて教えていただけますか。

事務局

〇〇委員がおっしゃるように昨年度は貴生川小学校で教科担任制を進めながら、それをモデルとして今年度に活かしていくという方向性を持っていましたが、今年度は、県や市の加配をつけて進めています。県からは、常勤の加配としましては6校、非常勤の加配は9校つけていただいています。市の方でもさらに加配をつけながら、今年度、教科担任制を進めていきます。

会長

〇〇委員、何かございますか。

委員

①の特色を活かした地域学の実践について、土山小学校に鮎河小学校と山内小学校が一緒になって、土山小学校の地域学の実践を私たちは聞かせていただいて、それを他のところへ広げていくなどを考えていくということですか。

事務局

〇〇委員のおっしゃる通りです。

委員

土山小学校の鮎河小学校と山内小学校が統合してからの取組みについては、事務局からの説明であるとか、実際に学校訪問に行かせていただくとか考えていただいているということですか。

事務局

〇〇委員のおっしゃる通りです。そのように考えております。

会長

この地域学は、土山だけではないですね。

事務局

市内全域で行っております。土山小学校は統合を行っております。事務局からの説明や学校訪問などを考えております。

会長

説明がありましたように、地域学は市内の学校でやっておられますが、土山小学校は鮎河小学校と山内小学校が統合になって、子どもたちにどうやって協同学習を行っているのかを参考にしていかなければならないのではないかという話であったかと思えます。

委員

貴生川小学校がコミュニティスクールという形で地域との取組みをされていると思いますが、そういう関係ではないのですか。

事務局

コミュニティスクールも含めて考えています。

事務局

今もお話ございました貴生川小学校と土山小学校が令和3年度コミュニティスクールのモデル校として先進的に行ってきております。そういった実績を踏まえた中で現場を見ていただき、地域学の部分をお考えいただければと思います。

会長

他に何かございますか。

委員

この審議会の以前の再編検討協議会の時に私の地域の小学校であったり、他校の話を知りながら地域学が1つのポイントでした。どうしても統合してしまうと今頑張ってやっておられる学校の特色がやり方であったりそういうものが消えていくのではないかと、地域との結びつきが減っていくのではないかと。再編検討協議会のどの委員もそれについては危惧されていましたし、故郷を思ってくれる子どもを育てるという観点から子どもたちが大きくなった時に小さな地域のことを忘れられてしまうのではないかとという危惧があります。私の地域の近くの小学校では、自治振興会で「ふるさと宮」という本を発行しました。小学校全校児童に渡して、地域を研究してもらい副読本になるように新入生の方に渡しています。学校だけの問題ではなくて、地域とのかかわりでもあると考えます。

会長

①に上げていただいているので、一番大事な部分ではないかと思われまます。

会長

時代に即した指導体制については、ウィズコロナ、アフターコロナもそうですが、少人数になっていくことに関して、時代に即したという点で考えていくのが主なところかなと思います。

委員

これは、私が社会人講師で小学校で教えていたことがありますが、デジタルの部分で得意な人であったり、子どもと一緒にやっという意欲のある人であったり、担任の先生によって変わってくることがよくあるので進めていく中で新しい備品を使うことになってもほとんど使わないクラスがあったり、非常に役立てているクラスがあったり、全体をうまくまとめていくのが難しいのかなあと思います。

会長

一度に今年度の4つの項目をやるわけではございませんので、それぞれの時に皆さん、地域の学校の中でも感じておられる部分があるので、先ほどのお話にもありましたが、先生によって、学校によってということがないような指導体制は大事だと思いますのでその辺もご協議いただければと思います。〇〇委員、いかがですか。

委員

教科担任制は、昨年貴生川小学校に学校訪問に行かせていただいて、第三者から見ると非常に専門的に学びの場があって非常に良いなあと思いましたし、子どもたちからすれば専門的にその気になれるような場を提供できるのは非常に良いのかなあと思いました。どんどん進めていただくことで、子どもの学ぶ姿勢が良くなるのではないかと考えます。小中一貫教育について、子どもたちからすると小学校から中学校へ行く過程で一緒のところへ通うと魅力が薄れるのではないかと考えます。それをするのであるならば、

いかに魅力ある学びの場にするのかが大事だと思います。

会長

教科担任制については、新たに小学校として導入されます。したがって、私たちが受けてきた中学校の教科担任制とはまた特色を変えてやろうとしているのが小学校の教科担任制ですので、その辺についても皆さんから貴重なご意見を賜りたいと思います。

〇〇委員からございました魅力あるものという点で小中一貫と小中連携との差別化する部分もあるかと思しますので、それについても皆さんからご意見をいただきたいと思ひます。副会長何かございますか。

副会長

委員の皆様のお話を伺って、私自身も①～④の内容については、学んでいきたいと感じています。特に①の「特色を活かした地域学の取組み」と③の「小中一貫教育について」は、①は土山小学校のお話が出ていたのですが、昨年度の審議会でも視察に行かせていただくことで実際の教育の場というのが私たちもよく分かりましたので、可能であれば土山小学校に視察に行かせていただき地域学の取組みであったり、コミュニティスクールの取組みでこれからの教育のあり方を学んでいけば良いのかなと思ひます。視察に行った後で協議ができれば良いと感じています。③の「小中一貫教育と小中連携教育について」は、一貫と連携の違いは、建物のことで敷地内や近隣に小学校と中学校があるということでの小中一貫だけではなくて、教育内容に関わってくるので、小中一貫教育と小中連携教育は違うので、可能であれば視察という形で先進の地域を見られたら、審議、協議ができるのかなあと感じます。②、④につきましても今求められている教育のあり方を審議していくうえで大事だと思います。事務局の方で視察に向け調整をしていただきたいと思ひます。

会長

いろいろと一度に全部のことをやろうとは思っていません。皆さんと年間通じて計画的に効率良くしないといけないという部分はありますが、事務局で案はございますか。

事務局

委員の皆様で、4点に絞っていただき、副会長のご意見にもありましたようにまずは視察を行い、そこから議論を深めていただけたらと考えております。早速で恐縮ですが、5月に土山小学校への視察を提案させていただきます。

事務局

明日以降にこちらから電話でご都合を伺います。よろしくお願ひいたします。

会長

5、6月の予定も早めに調整していただければ良いと思います。

事務局

事務局で5～7月の予定を作成させていただいて、会長副会長と相談したうえで皆様にご連絡させていただきたいと考えています。

会長

ほかにこの1年間を見通していただいて、ご意見ご質問等ございますか。

委員

I C T教育で今日も新聞を見ていたら、デジタル教科書を配って、子どもへのアンケート調査をされ、良かったなど感想が載っていたが、甲賀市でI C T教育、タブレット1人1台を開始しての満足度などのアンケート結果などあるのですか。もしあれば、審議の資料としてあれば良いと思います。教科担任制も昨年始められてメリットデメリットを貴生川小学校が学校として評価をどのようにされていたのかなどの資料があれば出していただければありがたいです。

事務局

年度末に教員に対するアンケートをデータとして把握しています。子どもの意識調査については、担当に確認をしまして準備ができるようであれば資料として提供させていただきたいと思います。検討させていただきます。

会長

甲賀市のタブレットはウインドウズですか。

事務局

ウインドウズとIPadです。最初に導入したのは、ウインドウズです。

会長

グーグルフォームでアンケートができると良いですね。ほかよろしいでしょうか。

委員

甲賀市は、平成26年度に再編計画の10年計画を立てられて再編検討協議会を各地域で立ち上げられて意見集約されたと思います。そのこととこのあり方審議会のつながりを確認させていただきたいと思います。教育長から、学校再編に限定せずにとということでしたが、根底には、学校再編があるかと思っています。先駆的に学校再編に取り組んでおられたと思います。8年余りが経過して、この審議会を立ち上げられたかと思います。私がここに来ている立場といえますか、私でなくても地元の方でも良いのではないかとちょっと思いましたので聞かせていただきました。平成26年度の再編計画と審議会の関わりについて教えてください。

事務局

平成26年度に今後人口減少が見込まれる中で学校再編の計画を策定し、今に至っています。しかしながら、地域の方のご意見を尊重して進めていく中で当初の計画通りに進んでいない現状があります。そうした中で現在に至っております。今後、中長期を見据えた中ではこれ以上人口減少が進んでいくことを考えた場合に学校再編は避けては通れない課題であるという認識については、教育委員会として変わりはありません。したがって、あくまでも学校再編については今後も考えていくことが前提にあります。それを踏まえた中で教育全体の環境をどうすべきかの中身として小中一貫、教科担任制、ICT教育など今後学校をどうするかについてご審議をいただけたらという思いがあります。目指すところは、学校の最適化について引き続き議論をした中で進めていきたいと考えておりますのでご指導等をいただけたらと思うところでございます。

会長

〇〇委員どうですか。

委員

学校だけでなく、コンパクトシティなど世の中進んでいると思いますので、学校教育だけが例外とはならないと思っています。学校再編と言っても、デジタル化の中でデジタルネットワークと結べば学校再編で物理的に小さくしてしまうのではなくて、小さいものがネットワークで結べば、大きな集団の学びになるとも考えているところです。

事務局

ICTの発達の中で対面的な学習以外のいろんな方策が出てきているのも現実だと思います。そういった部分と学校再編がどう組み合わせっていくか、どういう関連があるかご審議をいただければと考えているところでございます。

委員

学校再編検討協議会を地域でされていた中で、統合にほとんどの地域が反対しています。私が関わった再編検討協議会でもいろんな意見の中で今のICTなどを使えば、さほど学校再編にこだわる必要はないのではないかという意見が若い方からは出ていました。全体の中で学校再編に反対だというところが非常に多い中で、まずその反対である要因を解決していかないといけない。本当に再編をしていくとなるとほとんどの地域の中でなぜ再編をしていくことが大切なのかをもっと理解してもらえるものを作っていないと地域では受け入れてもらえません。私の地域でも小学校を捨てるわけではなく、地域としては、これ以上の人口が減ってくると仕方がない、学校再編にも協力できるかなど地域の意見を報告書として出したところ、地域の中からはかなり怒られたり、だれがそんなもの書いたのかと話があったり、県外の人からも私の母校がなくなるのはいつですかと電話がかかってきたりしました。小学校は思い入れのある場所であったり、今小学校にいる子どもたちが一番大切なのは分かるのですが、卒業した人にとっても思い出が残っている場所です。再編ありきで話をしていくというのは、再編検討協議会をした

地域を無視していることに近いと思うので、再編をするなら地域に分かりやすくきっちりやっていかないと、再編検討協議会の報告書を十分見ながら、どの点を理解しないといけないかを考えていただきたいと思います。

事務局

令和3年度にいただいた提言書の中でも地域の意向を尊重しながらという部分をお示しいただいております。今後、地域が衰退せずに持続していくためには、地域の理解を踏まえた学校再編が大事であると思います。今後については、提言書を踏まえた中で教育委員会としても議論をしていきたいと思っています。

会長

この問題につきましては、いろんな方面からいろんな領域から考えることはできるのですが、住んでおられる方や子どもたちにちゃんとした説明ができるようなあり方というものは、最適化、何をもち最適化というのかといったところも含めて、何でも良いから議論するというわけにもいきませんので、中身の部分で地域を大事にするというところをどうやって大事にするのかということを含めた点で皆さんに1年、学校のあり方、地域との連携のあり方を含めて考えていったらいいのではないかと本日4つのことについてのお話があったかと思っています。ほか皆様どうでしょうか。

委員

昨年度、話し合っ望ましい規模について結論を出していったと思いますが、地域も大切だし、今通っている子どもたちも大切だし、親御さんの思い、小規模校でも大規模でも課題はあるでしょうし、今後、児童数が増える要素もないですし、その中で子どもたちと保護者の意見をもっと吸い上げていたり、地域の声といっしょに聞いていかないといけないのかなあとと思います。各地域の再編検討協議会で意見をまとめられましたが、それから時間が経っていますし、その時のメンバーも地域によって私たちの世代の方であったという意見も聞きますし、地域の声も大事だと思いますが、これから小学校へいく子ども、これから育ていく子どもとその親御さんの思いもしっかり聞いていかなければならないし、今後の課題も見据えていかなければならないという思いは持っています。

委員

〇〇委員のおっしゃるとおりで、私が関わった再編検討協議会では、そのメンバーとして未就学の保護者やPTAの関係の方、地域の方を含めて行った場合に再編も仕方がないかなあという意見に落ち着いたわけですがけれども、不思議であったのが未就学児の親御さんが全員今の小学校が良いと言っていて、我々ぐらいの世代の者が今のままの小学校では子どもたちにとっては可哀そうという意見が出ていたのが不思議でした。他地域のことを聞いたときに区長さんであったり、その年代の方で集まっておられるところが多かったと聞きました。もう一度、再編検討協議会をやり直すなら、一定の人選、こういう中から選んでくださいというような再編検討協議会を行なって地域が本当にど

うしていくのが望ましいのか未来がしゃべれる話し合いの場を作ってもらわないと前は偏りが多かったのではないかと思います。人選の条件を揃えた地域での話し合いも必要かなあとと思います。学校は、子どもたちのためのものだけではないというのは、それなら僕らの世代の者は、思い出に浸るためだけの学校ではいけないと思うし、学校をどうやっていくか、守っていくか、どうやって活かしていくかがなかったら学校がここにある意義がなくなっていくように思います。

会長

あり方は、いろんな方とかいろんな見方を踏まえての話ですので、このあり方審議会としては、学校教育を中心として地域とどういう風に関わって、地域を学校を考えないといけないと思います。この1年、皆さんの良いお知恵をお借りしてより良い提言ができればと思っております。ほかございますか。

教育長

いろいろご意見をいただきありがとうございました。私の挨拶の中でお伝え、お願いしたかったことは2点です。1つは昨年度の提言の中で一定の方向性をいただいたということで、極めて小規模の学校については望ましくないので再編の方向で考えていくのが良いだろうと確認した点です。もう1点は、今年度は再編だけに特化せずいろんな面から教育環境についての審議を進めていただきたいということです。〇〇委員のご発言にもありましたが、各地域の再編検討協議会では、再編によって学校がなくなるということのデメリットばかりが議論され、どんなメリットがあるかということがしっかりと提示できなかつた反省がございます。先ほど申し上げました4点について、再編に伴うメリットになり得るかどうかも含めて十分検討いただきたいと考えています。地域学については、校区が広がればより広い地域の勉強はできますがそれが良いのか、地域を本当の地元だけに限定した方が良いのか一長一短だと思います。ICTについてもリモートの学習ができるけれども、それでは本当に面と向かった学びができないので一定の人数が必要かどうか検討も必要です。小中一貫教育や小学校の一部教科担任制は文科省が進めており、メリットが強調されていますが、本当にそれを導入することが子どもたちにとって良いことなのか。このような議論を通して、再編に反対の立場をとっておられる方に再編を理解していただく上での判断材料になり得るのかということの検討もお願いしたいと思います。4つテーマと再編を関連付けて今年度協議を進めていただきたいとそう思うところがございます。

会長

私たち委員の考えを出し合って、昨年度を踏まえて今年度は更にこういう提案ができるというところを皆さんとお知恵を絞りあって出していきたい。そこについては、人もいれば物もありますのでそれをどのように捉えていくか、壊すとか無くすとかではなしに何を大事にするか、残していくのか、何を大事に育てていくのか。皆さんから必要なご意見を賜りたいと思います。いろんなご意見がありましたけれども、議題はこれで終

了したいと思いますですがよろしいですか。それでは事務局お願いします。

事務局

ありがとうございました。限られた時間の中で多くのご意見を賜りまして、事務局の方で整理をしまして次回の審議に繋げさせていただきたいと思います。

先程お話がありましたスケジュールについては、明日以降に事務局で先方との調整をして日程についてご案内をさせていただきたいと思います。

委員の皆様には、ご多用の中ご都合のお悪い方もいらっしゃるかと思います。日程のご案内と同時に視察先での質問事項がございましたら、事前に聞かせていただきまして視察先でまとめて伺いたいと考えております。欠席させる場合におきましてもそのような対応をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。長時間にわたり、ご協議いただきましてありがとうございました。

それでは、最後に副会長より閉会のご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

副会長

本日第5回の甲賀市小中学校教育のあり方審議会ということで、第5回にさせていただいているということは昨年度の審議も含めたうえでの第5回ということであらためて、皆様や事務局のお話を聞きながら感じております。本年度の審議の4点について示していただいたのですが、今コロナ禍において教育のあり方が本当に変わってきたなあというのが実感です。国が進めている Society5.0 の社会が一気に進んだなあというのが大学ではリモート授業が一般化しましたし、視察に行かせていただいた小学校におきましてもタブレットによる授業が進んでいたり、そうした中で未来を担う子どもたちがどんな風に育っていくことが望ましいのかという教育の最適化というお話もありましたが、長期的な視点を踏まえた甲賀市の子どもたちの教育についてこの場でこれからも審議できたらなあと思います。子どもたちの未来、保護者、地域の方の未来を語るような審議になったら良いなあとあらためて感じております。4点ということで限られた時間の中で委員の皆様と協力し、事務局の方でもスケジュールを調整していただきながら、より良い審議会になればと思います。今日は本当にありがとうございました。

事務局

ありがとうございます。これもちまして第5回 甲賀市小中学校教育のあり方審議会を終了させていただきます。本日はどうもお疲れ様でした。

閉会